

(別記)

設楽町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は多くが山林という地域であり、鳥獣被害が多くみられる。山林付近の水田では鳥獣害による緩衝地としての自己保全管理も多くある。高齢化も進み、担い手の不足など農地の維持が問題としてあげられる。農地集積を行うとともに担い手への支援、鳥獣害に強い作物への作物転換などを行う必要がある。

地域の作物としては、水稲が多くを占めている。他にも道の駅や直売所などに並ぶ地元野菜等が振興作物として地域の農家を支えている。

2 作物ごとの取組方針

1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

(2) 非主食用米

・加工用米

当該地域の加工用米は、地元酒造メーカーへの販売を中心に生産を行っており、近年、加工用米の需要が高まってきている。

地元の実需者との結びつきを強化して生産の拡大を図っていき、52haの生産を目指す。

(3) そば

そばは、地元の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

(4) 野菜・花き・花木・果樹

別紙明細の野菜・花き・花木・果樹を振興品目とし面積は現状維持とする。

(5) 不作付地の解消

調整水田等の不作付地の改善計画の提出がある農地で3年以上解消にならない農地は、農地中間管理機構に預けるまたは、担い手への集積を行い、不作付地の解消をおこなう。3年以上自己保全管理の農地及び3年以上耕作放棄地になっている農地も同様に扱う。

このような農地に関して、農地中間管理機構に預けるまたは、担い手への集積、その他行政等の補助事業を行う。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	223ha	223ha	223ha
加工用米	51.66ha	52.00ha	52.00ha
米粉用米	0.1ha	0.1ha	0.1ha
そば	2.2ha	2.0ha	2.0ha
その他地域振興作物	14.2ha	39.6ha	39.6ha
・野菜	13.7ha	39.0ha	39.0ha
・花き・花木	0.1ha	0.1ha	0.1ha
・果樹	0.4ha	0.5ha	0.5ha

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)	平成 30 年度 (目標値)
1	高収益作物	エコファーマー等	ア	実施面積	2.50ha	2.75ha	2.75ha
2	高収益作物	農業・農村の所得 向上	ア	実施面積	12.45ha	12.45ha	12.45ha
3	加工用米	地産地消、品種限 定	ア	実施面積	51.66ha	52.00ha	52.00ha

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 地域農業再生協議会が水田フル活用ビジョンを策定する場合には、都道府県水田フル活用ビジョンの後に添付してください。